



最初の扉

通信教育コース 天野 七重

私の通信教育の有効期限は2011年9月末でした。

自分の体調不良や、追い込まれて火がつかないとエンジンのかからない性分ゆえ、最後の9・10回目のレポートに取りかかったのは、8月の初め頃だったと思います。

去年の夏は猛暑。体調はよくありませんでした。

9回目のレポートでは、立法をいくつかの中から自分で選ぶことが出来ます。

自分の体が暑さと湿気で参っている、と感じていた私は、なるべく清熱や滋陰、去湿の立法を選んで献立を考え、料理し、食べました。

あと2ヶ月！と追い込まれていたため、ほぼ毎日、日によっては一気に4品まとめて作ったりしては食べていました。そのうちに、自分の便の変化に気がつきました。きれいな話ではないので恐縮ですが、大便が便器にねっとりつくような状態だったのが、つるんとしたいい状態に変わっていったのです。勉強不足の私です。教科書の各立法の所に書いてある食材をなんとか組み合わせただけで、料理の経験や腕前も、とても胸を張れるものではありません。それでも、自分の体が素直に応じてくれた。この小さな手応えはとても嬉しかったです。薬膳の力を自分の身を持って感じる事ができ、難しくても自分は今とても良いものを勉強しているんだ、と思いました。

10回目のレポートも期限ギリギリで提出し、一部分再提出で1ヶ月延長して頂いたりして、なんとか卒業まで辿り着けました。本当にありがとうございました。今は、薬膳という果てしなく奥の深い道の、入り口の最初の扉をやっとこじ開けた、そんな気持ちです。薬膳を、自分、そして周りの大事な人達の健康を守るための力にできるように、自分の身につけた智恵にしていきたいです。

これからも、どうぞよろしくお願い致します。



2012年度秋期学生募集開始!

中医薬膳師コース 土日コース 第3土・日曜日(10:00~16:00) 2012年10月20日(土) 開講予定

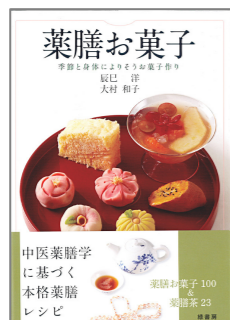
※ 通信コースは随時、入学を受け付けております。

書籍紹介

|| 薬膳お菓子

季節と身体によりそう
お菓子作り

- 著者名: 辰巳 洋・大村 和子
- ISBN: 978-4-89531-133-5
- 販売価格: 本体 2,400 円 + 税
- 発売日: 2012年7月20日
- 出版社: 緑書房



|| 防がん・抗がんの薬膳

中医学からの提案

- 著者名: 辰巳 洋
- ISBN: 978-4-906668-91-5
- 販売価格: 本体 4,000 円 + 税
- 発売日: 2012年7月25日
- 出版社: 源草社



※ 上記2冊の本は学校、8階事務所にて税抜価格にて販売しております。



- ◆ 「本草つうしん」はHP(ホームページ)内にて創刊号~最新号(35号)までカラー版をダウンロード出来ます。
- ◆ HP、ブログ等を持っている方で、本草薬膳学院のHPにリンクを貼りたい方は学院までご連絡ください。(但し、HPやブログの内容によってはリンク出来ない場合がありますので予めご了承下さい。)

本草薬膳学院HP <http://www.honzou.jp/>

【お知らせ】今号の「本草つうしん」は、10周年記念行事に関する記事を掲載するにあたり、発行予定日(6月15日)を大幅に遅れての発行となりました。尚、次号は予定通り9月15日発行予定となります。

本草薬膳学院 創立10周年記念大会が開催されました

2012年6月24日(日) 日本女子大学 桜楓2号館



本草薬膳学院創立10周年記念行事実行委員会の2年間の準備を経て、去る6月24日に記念行事が予定通りに開催されました。

当日、全国から296名の参加者にご出席頂きました。日本の来賓の皆様をはじめ、北京中医薬大学・河南中医学院の代表の方々にもご来日頂きまして、式典にご参加頂きました。

大会は本草薬膳学院学院長 辰巳洋先生の開会の挨拶から始まりました。辰巳先生は、今まで学校を支援して頂いた各方面の先生方に感謝の言葉を送り、学校のこれからの発展について述べました。そして10周年実行委員会 稲垣雄史委員長からは来賓をご紹介頂きました。北京中医薬大学教務長翟双慶教授・河南中医学院韋大文教授、東洋学術出版社会長・日本中医学会顧問山本勝司先生、千葉大学 環境健康フィールド科学センター 副センター長池上文雄教授、養命酒 中央研究所主任研究員江崎宣久先生がそれぞれ祝辞を述べられました。

記念行事は3部に分けて行われ、本年度国際薬膳師(士)合格者証書授与、今まで学校を支えていただいた先生方への感謝状授与。以降は「日中薬膳シンポジウム」「薬膳交流会」と行われ、大会は盛況の中無事に終了致しました。

改めて10周年実行委員会の皆様にご挨拶致します。



◆ お祝いとお礼の言葉

本草薬膳学院顧問

鷺見 美智子

2012年6月24日

本日は本草薬膳学院創立10周年心からお祝い申し上げます。

また、劉海洋先生に少しでもお力になりたいと思いつつも大した事もできないでいました私どもに、過分に感謝の意を表して頂き心からお礼を申し上げます。

本日のお喜びの日をお迎えになるまでには、劉先生はじめスタッフの方々並びに多くの先生方のご努力やご苦労がありがたくなったこととご推察申し上げます。

てつしよ

唐の大詩人李白の幼少の頃の逸話からできたという故事成語の「鉄杵成針」という言葉があります。

ある日、川辺を李白が通りかかった時石の上で鉄の棒をといでいる老婆をみかけ、「おばあさん、どうしてその鉄の棒をといでいるの？」と尋ねたら、おばあさんは「娘に刺繍針を作っている」とのことでした。李白はまた聞きました「そんなに太い棒をといで刺繍針になるのですか？」おばあさんは笑い、仕事の手を止めると、真剣に李白に言いました:「坊や、やめることなく研げば、この鉄の棒は1日1日と細くなりいつかは刺繍針になるのだよ。」

李白は困難に出会った時は、おばあさんの話を思い出しました。彼は毎日努力して勉強を続けて、とうとう唐代の大詩人になったということです。

日本では「鉄杵を磨く」という諺です。

鉄の杵を針に磨きへらす。即ち、根気よく一つの仕事に励むことのたとえです。

「継続は力なり」という言葉もあります。

本来、教育は成果が出るまでに時間がかかり根気のいるものです。

本草薬膳学院もこれからいろいろな困難に遭遇することもあると思いますが、末長く続けられ日本の大地に深くしっかりと根をはった大樹になられますことを心から願って、お祝いとお礼の言葉とさせていただきます。

